



いわて医療通信

【男性が注意すべき病気、前立腺疾患】

2、前立腺肥大症の診断

今回は前立腺肥大症がどのように診断されるか説明していきます。

排尿症状を訴えて泌尿器科の病院やクリニックを受診すると、問診・身体診察・検査が行われます。問診では、症状の質問票として国際前立腺症状スコアというものがあります。国際前立腺症状スコアとは、前立腺肥大症の自覚症状を評価し、重症度を判定するための質問票です。残尿感・頻尿・尿線途絶・尿意切迫感・尿性低下・腹圧排尿・夜間排尿回数に関する質問

と、現在の排尿状態に対する患者さん自身の満足度に関する自分で点数をつけていただく項目があり、治療の必要性を見極める判断材料になります。診察では直腸診によって肛門から指を挿入し直腸の前にある前立腺の触診を行い、前立腺の大きさや腫瘤がないか確認します。

前立腺肥大症の可能性がある場合に対してはさまざまな検査が行われます。尿検査によって血尿の有無や尿路感染の有無を検査します。機械を使った

尿流測定によって、尿の勢いや排尿にかかる時間、尿流の途絶などの状態が把握できます。また、超音波検査で排尿直後の膀胱に残った尿の量を測定し、尿をためた状態で検査することによって前立腺の大きさや膀胱結石、膀胱形態の評価を行います。前立腺の大きさは外科的手術の適応を検討するために必要です。また、血清前立腺特異抗原PSA(前立腺が産生するタンパク質で精液中に分泌され、精液の性状に関連する)が測定されることもしばしばあります。PSAは採血で測定し、前立腺が

尿の勢いの診断に用いられる腫瘍マーカーです。前立腺が大きいとがんが存在しなくても測定値が高くなることもあります。前立腺がんは尿道から離れた前立腺辺縁域という部分に発生することが多く、初期であれば排尿症状とは関連しないことが多いです。

このような問診・検査の結果によって患者さんの前立腺肥大症による排尿障害の重症度を把握し、薬や手術による治療の必要性が判断されています。

今回は治療に関して説明



出典：(公財)前立腺研究財団編『前立腺がん検診テキスト』 図：SPA値別の前立腺がん発見率

岩手医科大学 泌尿器科 加藤 廉平